

パイオニア製サウンドシステムが LEXUSのSUV新型「NX」に標準装着

パイオニア株式会社

2021年10月07日

パイオニアのサウンドシステムが、LEXUSのラグジュアリークロスオーバーSUV新型「NX」（2021年11月以降発売予定）に標準装着される「レクサスプレミアムサウンドシステム」として採用されました。

本システムは、レクサス初の高効率バスレフ構造を採用したリアスピーカーやボディ骨格を活用したサブウーファーを含む10個のスピーカーと、当社が長年培ってきた高音質技術に加えて最新のデジタル信号処理技術を搭載した8チャンネルフルデジタルアンプで構成されます。車両コンセプト「Vital x Tech Gear」に基づき、躍動感ある質感の高いクリアな低音再生と、開放的なステージと車室内空間との自然なつながりを実現しています。





■レクサス初の高効率バスレフスピーカー

リアドアに、車室内の音響解析に基づき、ドア上部に中高域スピーカーを、ドア下部に低域の出口であるダクトを最適に配置した高効率バスレフスピーカーを、レクサスで初めて搭載しています。この構造により5.5ｃｍの小口径スピーカーながら16㎝フルレンジスピーカー相当の低域再生、同フルレンジスピーカー以上の高域再生が可能になり、一つのスピーカーでより広い帯域再生を実現しています。ドア上部から再生される中高域により高い位置での音像とステージ感を実現すると同時に、ドア下部から再生される低域により量感豊かな低音も実現します。

■レクサス初の車両構造を活用したボックスサブウーファー

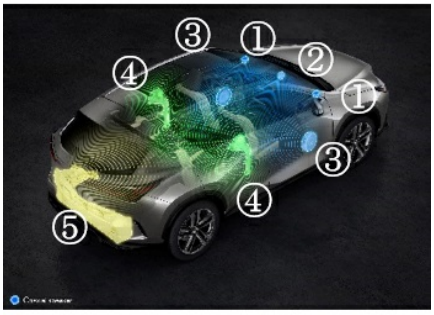
バックドア付近に、ボディ骨格の空洞となっている部分（ロアバック）をボックス容積として活用することで、サブウーファー自身のボックスを小型化したボックスサブーウーファーを、レクサスで初めて搭載しています。この構造により、大容量ボックスと同じような重低音再生を実現しながら、従来圧迫していた荷室スペースを確保しています。さらに車両剛性の高いロアバックにボックスを取付けることで、躍動感のある質感の高いクリアな低音再生を実現します。

■ハイレゾ音源対応の高性能デジタルアンプ

新開発の8チャンネルフルデジタルClass-Dアンプは、小型軽量化や省電力化を実現しながら、CD音源（44.1 kHz/16 bit）よりも高音質なハイレゾ音源（96 kHz/24 bit）の再生にも対応。当社独自の最新音響解析技術を用いた音響チューニングを施すことで、広がりのあるステージ、クリアな中高音、重厚でキレのある低音と洗練された音場空間を創出します。さらに、当社独自アルゴリズムによるアップコンバート機能を搭載し、CD音源だけでなく、圧縮音源(MP3、AACなど)もハイレゾ音源相当の高音質で楽しむことができます。

レクサスプレミアムサウンドシステム

8チャンネルフルデジタルClass-Dアンプと10個のスピーカーで構成されたサウンドシステム。当社が長年培ってきた独自の音響技術を活かし、忠実な原音再生を実現しています。



①インパネサイド	9cm CST※ ×2
②インパネセンター	9cm Midrange ×1
③フロントドア	18cm Woofer ×2
④リアドア	5.5cm Effective Port Bassref ×2
⑤リアシートバック	20cm Subwoofer ×1
⑥センターコンソール下	8ch Class-D AMP ×1

※Coherent Source Transducerの略
1つの筐体に2つのスピーカー（ミッドレンジ+トゥイーター）を内蔵するユニット

新型NX　車種紹介サイトはこちら